

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

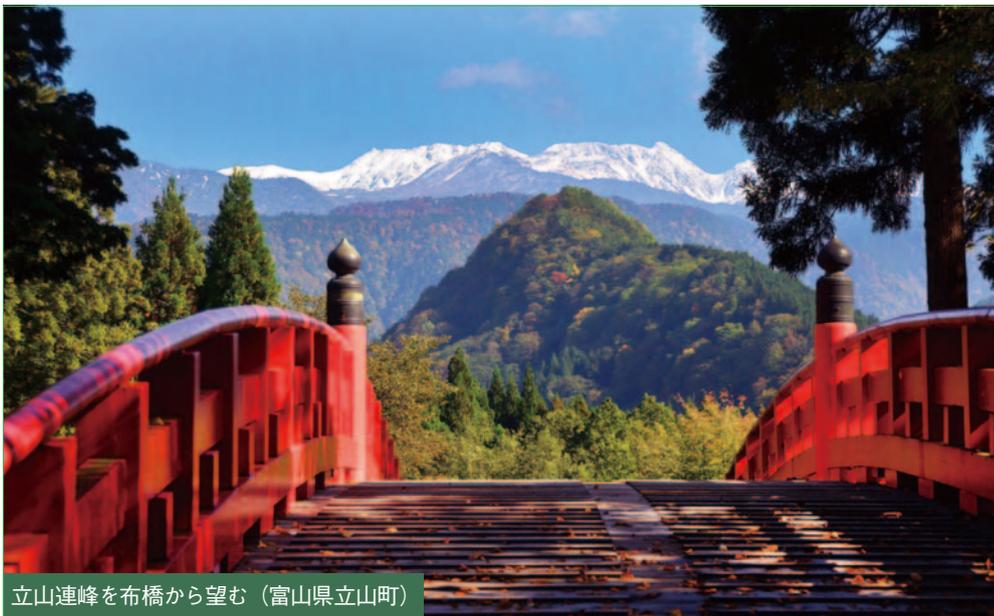
3014号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



立山連峰を布橋から望む (富山県立山町)

もくじ

- 随 情 情 情 ● フォーラム ● 政 策
- 想 報 報 報

「明治150年」に向けた取組について
 ……内閣官房「明治150年」関連施策推進室参事官補佐 植草泰彦…(2)

サブカルチャーの聖地を目指して
 廃校を活用した小さな町の大きな挑戦II 福岡県鞍手町…(4)

平成29年度過疎地域自立活性化優良事例を決定…
 町村Navigator…(8)

新任都道府県町村会長の略歴…
 絆で輝く未来を創る交流のまち…
 ……京都府宇治田原町長 西谷信夫…(10)

コラム

郷土の子弟を鍛えて

ジャーナリスト 松本 克夫

今年の夏の甲子園。ポンポン飛び出すホームランに、高校生のパワーや技量は随分向上したものだと言った。同時に、こんな筋力トレーニングや栄養指導を取り入れたセミプロ級のチームと、わが母校のような田舎の公立高校チームとの力の差は広がる一方だろうとやや寂しい気持ちにもなった。

広域から有力選手を集める新興の強豪校が各地に登場してから、地元出身者だけで固めたチームの甲子園への夢は遠くなった。この夏、甲子園の全国大会に出場したのは49チーム。その中には、18人のベンチ入りした選手のうち10人以上が他の都道府県出身者というチームが17もあったという。かつての郷土の対抗戦のイメージはかなり薄れた。

もっとも、昔の高校野球の伝統が消え失せたわけではない。長崎県波佐見町にある県立波佐見高校は、ほとんど地元出身者だけのチームで見事に甲子園出場を果たした。少年野球や中学校チームでも全国制覇した選手たちが主力というから、小さい頃から鍛えた

成果だろう。人口1万5,000の町のチームの出場は小さな町村に希望を与えるものだ。

甲子園出場は成らなかったが、高知県予選で決勝まで進んだ県立梶原高校の快進撃も見逃せない。人口3,600の梶原町にある高校だが、2006年に生徒数減少で存続の危機に直面し、野球部創設を思い立った。今では町を挙げての支援を受けて、約40人の部員が旧町営幼稚園を改修した建物などで寮生活を送る。町外出身者が多いとはいえ、町ぐるみで育てている選手たちといつていい。

波佐見町は、400年の伝統を誇る焼き物の町。一時は輸入品などに押されて苦戦していたが、窯業と農業を組み合わせたグリーンクラフトツーリズムにより息を吹き返している。高地にある梶原町は、「雲の上の町」を自称する。いち早く風力発電など再生可能エネルギーに取り組んだ町として知られる。

郷土代表にふさわしいチームづくりは、地域の資源を生かしたまちづくりに通じる。甲子園への道は遠くとも、意地と誇りを育む。

政 策 解 説

「明治150年」に向けた取組について

内閣官房「明治150年」関連施策推進室参事官補佐 植草泰彦

1 来年は「明治150年」

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年に当たる。明治以降、近代国民国家への第一歩を踏み出した日本は、明治期において多岐にわたる近代化への取組を行い、国の基本的な形を築き上げていった。内閣制度の導入、大日本帝国憲法の制定、帝国議会の設置を始めとした立憲政治・議会政治の導入、鉄道の開業や郵便制度の施行といった技術革新と産業化の推進、義務教育の導入や女子師範学校の設立といった教育の充実など多くの取組が進められた。また、若者や女性等が海外に留学して知識を吸収し、国内で新たな道を切り拓いたり、外国人から学んだ知識を活かしつつ、和魂洋才の精神によって、単なる西洋の真似ではない、日本の良さや伝統を活かした技術や文化も生み出された。

一方で、昨今に目を向ければ、人口減少社会の到来や世界経済の不透明感の高まりなど激動の時代を迎えており、近代化に向けた困難に直面していた明治期と重なるといえ、「明治150年」を迎える来年を節目として、改めて明治期を振り返り、将来につなげていくことは、意義のあ

ることだと思われる。こうした趣旨から、明治以降の歩みを次世代に遺すこと、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することを目的として、昨秋に、内閣官房副長官を議長とした局長級の「明治150年」関連施策各府省連絡会議」を設けるとともに、内閣官房に「明治150年」関連施策推進室」を設置し、「明治150年」に向けた取組を進めていくこととなった。

2 中間とりまとめ

この体制の下、昨年の12月に全体のコンセプトを確認し(平成28年12月26日「明治150年」関連施策の推進について)、本年7月に「明治150年」関連施策の中間とりまとめ(以下「中間とりまとめ」とする。)を公表した。中間とりまとめにおいては、政府のほか、自治体、民間団体のものを合わせ、450以上の施策が取りまとめられた(詳しくは「明治150年」関連施策推進室ホームページ参照)。これらは大きく三つのテーマに整理される。

(1) 明治以降の歩みを次世代に遺す施策
一つ目は、「明治以降の歩みを次世代に遺す施策」である。これは、「明治150年」を機に、歴史的遺産の

散逸・劣化を避けるとともに、明治以降の歩みを改めて整理し、未来に遺し、特に次世代を担う若者にこれからの日本を考えてもらう契機として、よつというものである。政府の歴史公文書を保存する施設である国立公文書館においては、現在も明治期の資料が多数保存されているが、各府省にはまだ眠っている貴重な文書も存在すると思われる。そこで、これらの更なる移管促進に取り組むことと併せ、各府省においても改めて文書の収集公開に取り組む。特に、「明治150年」では、近年の情報化を踏まえてソフト面に入れて取り組むこととしており、その中核になるものとして、デジタルアーカイブ化を積極的に行う。国立公文書館に保存された文書のデジタルアーカイブ化を充実させることはもとより、各府省の保存資料のデジタルアーカイブ化、それらを元的に見ることのできるポータルサイトの設置を行う予定である。一方、地方においても、明治期の資料が多数存在すると思われるものの、技術的・財政的な事情によりデジタルアーカイブ化を進めることができない自治体も数多くあると考えられる。そこで、今回は地方におけるデジタルアーカイブ化のための国立公文書館による技術的助言、地方財政措置を通じた支援も盛り込んでいる。

政 策

図1



(2)明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策

二つ目は、「明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策」である。これは、明治期の人物、技術、芸術文化に触れる機会を充実させる取組である。先述した通り、明治期には若者、女性、外国人が活躍されたが、こうした人々の活躍や、技術、文化に関する遺産については、時間とともに記憶が薄れて埋もれてしまったものや、一部にしか知られておらず十分に知られていないものも数多いのではないかと思われる。そこで「明治150年」を機に、これらを改めて認知する機会を設け、明治期に生きた人々のよりどころとなった精神を捉えることにより、日本の技術や文化といった強みを再認識し、現代に活かすことで、日本の

更なる発展を目指す基礎にしようとするものである。具体的には、明治期に活躍した女性に関する企画展、明治期の金融制度確立等に貢献した若者、外国人等の活躍の調査・広報、迎賓館や法務省赤レンガ棟における特別展示、大学図書館が所蔵する明治期コレクションの企画展等を盛り込んでいく。

(3)明治150年に向けた機運を高めていく施策

三つ目は、「明治150年に向けた機運を高めていく施策」である。これは、今後の広報や情報発信を中心としたものである。各府省発行の白書等に明治関連の記事を記載することや、明治150年を冠した武道大会等の各種記念大会の開催等を盛り込んでいく。

中間とりまとめに記載された国の関連施策のうち予算措置が必要なものについては、平成30年度概算要求において対応しているが、その内容については内閣官房において取りまとめ、公表する予定である。

3 町村への期待

現時点ではまた認知度が必ずしも高くない感のある「明治150年」の取組だが、これまで紹介したよう

にその内容は多岐に渡っており、いよいよ1年前となる今秋以降に本格化していくものと思われる。国においては、8月末に「明治150年」ロゴマークを図1の通り決定した。このロゴマークは、150年前の明治からの大きな一歩を、明治の「明」の字の足で表現し、さらに、ジャパソンの赤と白を使い、150年の丸で日の出と日の丸を表現している。新たな一歩、未来への一歩のきっかけを作った明治を表すとともに、明日へ向かう一歩への思いが込められたものである。地方公共団体、民間等の方々が、「明治150年」関連施策をはじめとする各種取組を行う際に、事前にHP (<http://www.gov-online.go.jp/cam/meiji150/>) から使用申請登録フォームに入力していただければ、ダウンロードして使用できるので、是非とも活用していただければ幸いである。

今後はこのロゴマークを活用しつつ広報活動を強化する予定であるが、国において更に取組を強化するのは当然のこととして、全国各地に明治期の遺産が存在していることに鑑み、これからは各地域における取組がさらに進んでいくことを強く期待したい。「明治150年」の取組は、来年が「明治150年」であることに着目したものではあるが、「明治

維新」に限らず「明治時代」全体にスポットをあてている。また、政治、行政に関するもののみならず、当時の経済、産業、文化、生活など、あらゆる側面からのアプローチが可能である。中間とりまとめにおいては、自治体の取組として、地域にある歴史的建造物の保存・活用、県立図書館の資料のデジタルアーカイブ化の推進、地域出身の女性の生誕記念イベントなど、250余りの取組を寄せていただいたが、自治体の全体数を考えれば、まだまだ埋もれているものも多く、これから伸びる余地は大きいと思われる。建造物や文書の保存、普及に取り組むことは、地域における歴史を再確認することに加え、内外からの関心を引き付け、活性化に必ずや一役買えるものと感じている。是非ともこの機会に、それぞれの地域に眠っている明治期の遺産を掘り起こし、活用していただければと思う。特に、一つの重要な柱である歴史的資料の保存に関しては、デジタルアーカイブ化の支援措置も講じられているため、是非とも活用していただきたい。内閣官房においても、今後、地方のイベント情報等を情報発信するなど、自治体の取組を後押ししていきたいので、是非、国とも連携し、新たな取組を行っていただければ幸いである。

くろらて学園プロモーションビデオにエキストラ参加してくれた皆さん

現地レポート

町村独自のまちづくり



サブカルチャーの聖地を目指して 廃校を活用した 小さな町の大きな挑戦

福岡県 鞍手町

消滅可能性都市福岡県
ワースト1位からの脱却

鞍手町は、福岡県北部の町で、福岡、北九州両政令都市の中央に位置する面積35㎢ほどの小さな町です。古くは石炭産業で栄え、一時は人口3万人を超えましたが、昭和30年代後半のエネルギー革命によりすべての炭鉱が閉山。失業や人口流出などで町は大きな痛みを受けました。その打開策として、町は約半世紀をかけ、農業の振興、企業誘致、住宅誘致などを進めてきました。

近年では、九州自動車道鞍手ICの開通など、新たな交通軸を柱としたまちづくりを進めてきましたが、人口減少には歯止めがかからず、直近の国勢調査では1万6千人にまで落ち込んでいます。加えて、平成26年に日本創成会議（座長・増田寛也元総務相）が発表

した、消滅可能性都市ワーストランキングでは、福岡県で1位、全国でも30位という、不名誉な結果に。新聞には「女子が消える町」というショッキングな見出しが躍りました。



△平成23年に開通した鞍手ICを手前に上空から見た町並み



フォーラム



△廃校となった旧鞍手南中学校（現くらて学園）

2つの廃校の活用策を公募
実現可能なアイデアはなし

この状況を打開する取組の一つとして、教育環境の充実を図るため平成27年4月、町内2校の中学校を統合。以前、専門学校として使用されていた校舎などを町が買い取り、改修を加えて新たな中学校を開校しました。新中学校の校舎は、広々とした空間に充実した学習設備、太陽光発電による冷暖房などを完備。また、400mトラックが優に入るグラウンドや専用の野球場、体育館、人工芝のテニスコートなども設営し、生徒達が集中して勉強やスポーツに取り組める教育環境となっています。

廃校から2か月、校舎は窓ガラスが数回壊されるなどのいたずらが続いていました。その対応に苦慮していた町に、平成27年6月中旬、1件の企画が持ち込まれました。旧鞍手南中学校をアニメの聖地にしませんか…。「くらて学園」構想です。
福岡市内で企画会社を営む重松克則さん（山重堂合同会社代表）は、20ページにも及ぶ企画書を携え、熱く語りましました。「廃校をまるごと、大きな撮影スタジオにしてみませんか。本物の教室、長い廊下、階段、体育館、屋上など。今、コスプレ撮影で本物の学校が使える場所は全国を探してもそうありません。常設スタジオになれば、全国各地から必ず若い子達が集まってきます。世界的には5兆円規模といわれる

学校をまるごとスタジオに
「くらて学園構想」

この統合により、2つの空き校舎ができました。町では、統合の1年前から、今後の活用方法を決めるため、町内の有識者などで組織する「中学校跡地等利用検討委員会」を設置し、協議を進めてきました。この中で、活用方法のアイデアを町内外に募集したところ、企業誘致や図書館整備、高齢者の居住施設建設など26件もの応募がありました。運営や財政面の問題から、実現できそうな案は見つかりませんでした。

▷重松さんが企画した「くらて学園構想」



オタク産業市場。もし、ここに100人のコスプレイヤーが集まれば、そこにコミュニティが生まれ、評判がツイッターなどSNSでどんどん拡散していきます。コスプレは学園物の漫画やアニメが人気ですから、くらて学園が聖地になれば、クリエイターの注目も集まり、それが新規創業や雇用に、さらには移住・定住の促進にもつながります。」と。
「コスプレイヤー」や「カメコ（カメラ小僧）」など、聞き慣れない言葉に徳島眞次町長をはじめ、対応した私たち職員も戸惑いと驚きばかりでしたが、「面白いじゃないか、やってみよう。」という、町長の決断でプレイベ

ライフラインが全滅でも
イベントに156人が参加

第1回「くらて学園」は、1か月後の平成27年7月26日、日曜日に開催が決定。コスプレと痛車（アニメキャラなどをラッピングをした車）の2つのイベントを同時に実施することになりました。しかし、開催の告知はわずか2週間前。通常では、衣装や道具などを手作りするため、2〜3か月前に告知するのが当たり前です。この短い期間で人は集まるのだろうか…。また廃校舎は、電気や水道、トイレ、空調などすべてのライフラインが使えません。不安は募るばかりです。

でも、そんな不安はすぐに払拭されました。当日の早朝、重いキャリーケースを持って受付に列を作る若い女の子たち。みんな電車やバスを乗り継ぎ、地図を片手にくらて学園を目指してきました。
アニメキャラの衣装に、色鮮やかなウィッグ（かつら）、化粧、カラーコンタクトなどなど。着替えを終え更衣室から出てきた彼女たちは、まったくの別人に変身。校舎や体育館、屋上など場所を変え、2人から10数人のグループが専属カメラマンの注文に添えてポーズを取ります。1日で2、3人のキャラクターを演じるコスプレイヤーもいます。すれ違うたびに礼儀正

フォーラム



△学園もののキャラクターになりきるコスプレイヤーさんたち

校舎改修やコンテンツ作成に
地方創生交付金を活用

ちょうどそのタイミングで、内閣府から地方創生交付金（先行型上乗せ交付タイプI）の事業募集がありました。町では、くらて学園の取組は、廃校利用や先駆性などがその目的に合致する

しくあいさつをくれる参加者たち。みんな笑顔であふれていました。その姿を見たとき、「これはいけるのではないかと」と、熱い何かを感じたものです。この日のイベントには、県外を含め、156名が参加。大成功でした。これを機に、土日の2日間開催やハロウィン、アニメソング、校内お掃除イベントなど、月に一度という継続したイベントの開催が始まりました。

と考え、「学校まるごとアニメ事業」として応募。11月上旬には、申請した全額の交付が決定しました。しかし、ここからが大変です。申請したソフト事業、ハード事業ともに、半年後の平成28年3月末までに完了しなければなりません。イベントの開催やプロモーションビデオ、ホームページなどコンテンツの作成を柱とするソフト事業は、重松さんを中心に設立された「くらて学園合同会社」に委託することとなりました。

ハード事業では、電気、水道などライフラインの復旧のほか、インキュベーションベース（創業支援室）やトイレ、休憩室、事務室などの改修工事を急ピッチで実施。備品として高精度3Dプリンタや漫画編集用ペンタブ



△おしゃれに改装された創作漫画図書室

レットなどを揃え、クリエイターの受け入れに備えました。

また2月には、平成27年度補正予算として提示された地方創生加速化交付金に「学校まるごとアニメ事業」をさらに進化させた「学校まるごとサブカル事業」として応募。東南アジアを中心としたコスプレイヤーを受け入れるインバウンド事業やオリジナルの漫画を展示する創作漫画図書室の整備等の事業を柱に追加の交付を受けることになりました。

この交付金を活用したハード事業として、図書室や和室、更衣室などを改修。また漫画や写真集などを製本する無線綴じ製本機、3Dスキャナ、レーザーカッターなどの備品を導入しました。

創業支援室はシェアルーム
仕事の化学反応に期待

平成28年4月には、学校校舎と町が交付金で購入した備品について、くらて学園合同会社に無償貸付する契約を締結。ここから、くらて学園合同会社は、維持管理に必要なすべての経費を負担するなど自走に向けて本格的に取り組み始めました。

また7月末には、インキュベーションベースの利用について、13事業者との間で契約を締結。このインキュベーションベースは、月3千円で、机や椅子、パソコン、会議室などをシェアして使用できることが特徴です。印刷や



△インキュベーションベース利用契約調印式

東南アジア3か国から
6名を親善萌え大使に任命

デザイン、スーツアクトターなどの会社のほか、写真や音楽、映像、イラスト、グッズ制作など個人でも利用されています。通常のインキュベーション施設のように利用者が常駐しているわけはありませんが、必要に応じて利用者間で調整して仕事の依頼に応じたり、アイデアを出し合ったりして新しい仕事を創出したりしています。さらなる仕事の化学反応に期待しています。

平成29年2月には、加速化交付金のソフト事業として、シンガポールから3名、マレーシアから1名、インドネシアから2名の合計6名のコスプレイヤーを招聘。「くらて学園親善萌え大

フォーラム



△萌え大使任命式で (前列左から二人目が徳島町長)

使」に任命しました。

この事業は、福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アシアンビート」や(株)日本旅行、シンガポールに拠点を置くイベントサイト「AFA (アニメ・フェスティバル・アジア)」の協力を得て実現したもので、6名の中にはインスタグラムでフォロワー数が13万人を超えるコスプレイヤーもいます。萌え大使は、2泊3日の短い滞在の中、くらて学園で日本の文化やコスプレ撮影を満喫。日本のコスプレイヤーとも親睦を交わしていました。

また3月上旬には、アウトバウンド事業として、シンガポールで「くらて学園コスプレ集会」を開催。くらて学園から2名のコスプレイヤー

くらて学園は、全施設を貸スタジオとして活用できることから、大学の学生募集のコマーシャルやアイドルグループのプロモーション動画、写真集の撮影にも利用されています。また、

希望と課題が交錯する中
進化を続けるくらて学園

とカメラマンが渡星し、萌え大使や現地のアニメ、コスプレの愛好者約400名と交流しました。短期間でしたが、写真撮影会やメイク術の講演など充実した時間を過ごすことができ、「くらて学園」の魅力を十分にアピールできたのではないのでしょうか。



△シンガポールでのイベントも大成功でした



△イベントの撮影は、日が暮れるぎりぎりまで続きます

撮影イベントは学園内に留まらず、町内の花畑や神社、キャンプ場、廃墟(使用していない公共施設を活用)などにもその範囲を広げています。これは、インキュベーションベースを利用する若いカメラマンたちが立ち上げたもので、「くらて学園(かんこう)」として定着してきました。

くらて学園の企画が持ち込まれて、1年9か月が過ぎました。月に一度の定例コスプレイベント(土日の2日間)には、平均200名以上が参加。うち2割以上は県外から訪れています。学園の生徒(会員)数は1,200人を超え、新規の生徒はまだ増え続けています。

しかしながら、この「くらて学園構

想」が成功したと言えるまでには、越えなければならぬ壁がまたたくさんあります。安定した収益の確保、人材の育成、施設の維持管理など、くらて学園が本当の意味で自立していくためには、多くの課題が残っています。

これまで、鞍手町とくらて学園合同会社は「協働」の立場でこの事業に取り組んできました。今、くらて学園を通じて多くの若い力が結集し、次々と新しい企画にチャレンジしています。町を活性化させようという、重松さんたちスタッフの行動力や熱い思いに負けないように、これからも町はサポートを続けていかなくてはなりません。

くらて学園は、どこまで進化できるのか……。小さな町の大きな挑戦は、まだ始まったばかりです。

鞍手町 地域振興課



△廃墟はコスプレイヤーに人気のスポットです

情 報

平成29年度過疎地域自立活性化優良事例を決定

総務省と全国過疎地域自立促進連盟は、8月31日、平成29年度過疎地域自立活性化優良事例表彰における

優良事例を決定、公表した。この表彰は、地域の自立と風格の醸成を指した過疎地域の取組を奨励するために行うもので、創意工夫により地域の活性化に取り組み優れた成果を上げ、過疎対策の先進的モデル事例としてふさわしいことなどを審査基準として、過疎地域自立活性化優良事例表彰委員会(委員長・宮口侗迪

早稲田大学名誉教授)において選考されている。

平成29年度は総務大臣賞5事例、全国過疎地域自立促進連盟会長賞3事例が選考された(別表参照)。このうち総務大臣賞を受賞した徳島県那賀町の「丹生谷清流座」のキャッチフレーズは、「人形浄瑠璃で地域に恩返し」。同町には人形浄瑠璃の農村舞台が全国で最も多く存在しているが、唯一活動している人形座が高齢化で存続が危ふまれていた。こ

【受賞事例】

◎総務大臣賞(5事例)

団体名	キャッチフレーズ
特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構 (新潟県十日町市)	都市と地域の協働で行う、アートによる地域活性化「大地の芸術祭の里」
郡上市 (岐阜県郡上市)	住民主体による手づくり自治と産業の創出～ハンドメイドの里「めいほう」をめざして～
丹生谷清流座 (徳島県那賀町)	人形浄瑠璃で地域に恩返し～温故創新 伝統を受け継ぎ新たな創造へ～
唐津市相知町藤野集落 (佐賀県唐津市)	人がつながり、輝く地域 ～棚田の魅力で交流促進～
日置市高山地区公民館 (鹿児島県日置市)	地域資源と人材をフル活用 ～全員参加で地域づくり～

◎全国過疎地域自立促進連盟会長賞(3事例)

団体名	キャッチフレーズ
池田町 (福井県池田町)	木望(きぼう)のまちプロジェクト～人と暮らしと仕事が木でつながるまち育て～
一般社団法人 おいでん・さんそん (愛知県豊田市)	都市と山村が支え合う「暮らし満足都市」豊田市～中間支援組織“おいでん・さんそんセンター”の取組～
四国西予ジオパーク推進協議会 (愛媛県西予市)	リアル風景と音楽の融合

の現状を知った地元青年団が中心となり「丹生谷清流座」を結成。人形浄瑠璃を通して、伝統芸能の継承だけでなく、農村舞台など歴史的文化資源に新たな価値を見出し、利活用を進めることで、地域の魅力を高めていることが評価された。人形浄瑠璃は阿波を代表する伝統芸能。農村舞台はお年寄りから子供まで様々な世代や団体間の交流の場になるともに地域愛の醸成に寄与している。全国過疎地域自立促進連盟会長賞を「木望(きぼう)のまちプロジェクト」で受賞したのは福井県池田町。町の92%を占める森林を活用して、木のぬくもりで子どもたちを育み、家族や地域の人と人が木や森を守り活かすことでつながり、絆を生み出す仕組みの構築を目指す。町内各所の交流拠点施設は、森林資源を活かした地域循環型経済の創出や若者の雇用促進の場になっている。これらプロジェクトの取組は、移住・定住人口および都市農村交流人口の拡大につながり、農村の力を活かした地方創生を実現している。

優良事例を受賞した団体の表彰式は、10月19日、佐賀市で行われる「全国過疎問題シンポジウム2017 in さが(全体会)」で執り行われる。

コトバの図書館

●三十六計逃げるにしかず

計略にはさまざまなものがあるが、困ったときは逃げるのが最善の策であるという意味。三十六計とは中国古代の兵法である三十六種類の計略を指す。

出典は中国の歴史書『南斉書』。宋の武将・檀道濟(檀公)が兵を率いて北魏討伐へ向かったが、あと一步のところで食料不足に苦しみ、やむなく撤退したことから「檀公は逃げることを最も得意とした」と言われたという逸話に由来する。

日本には長らく「敵前逃亡は恥」とする文化があり、物事を途中で投げ出さずにはいけないと小さいころから教えられている。しかし三十六計で最高の策とされているのは、「走(走って逃げる)」。負けて死ぬよりも逃げのびる方が、機を見て再起できる可能性があるという考え方だ。

撤退の決断ができるのは、冷静な判断力があるということ。目先の勝負に固執しすぎると、正しい判断ができず危険を招くことがある。ビジネスも人間関係も「押し」と「引き」のくり返し。逃げないことで自分を追い詰めたり、事態を悪化させるより、争わないことで好転できる場合もある。ただし、大事なことから逃げてしまうと、逆効果になってしまう。「逃げ」の戦術は時機の見極めが肝心だ。

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

徳島県町村会は平成29年8月18日の定例会で次の通り会長を選出した。

(8月21日就任)

徳島県町村会長
名西郡神山町長

後藤 正和
昭和25年3月1日生



【住所】名西郡神山町神領字西上角2
12番地2

【町村長としての当選回数】4回

新刊紹介

希望を待つ人

―アグロエコロジーへの誘い―

ピエール・ラビ著、天羽みどり訳、

勝俣誠解説

コモンズ刊 定価2,300円＋税

【町村長に就任するまでの経歴】▽昭和63年1月1日〜平成15年4月22日神山町議会議員▽平成15年4月30日神山町長

【町村会関係の経歴】▽平成17年6月監事▽平成23年8月副会長

【主な業績】▽平成16年アナログ放送終了後の難視聴解消を目的に、町内全域に光ファイバー網を整備▽自然豊かな住環境と高速インターネット環境を求めて最新技術を持つIT企業のサテライトオフィスが相次いで開設▽クリエイターなど多才な人材が町に定住し、起業移住による新たな人の流れや新規雇用の創出を実現▽平成27年神山町版総合戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定▽現在、「すまいづくり」「ひとづくり」など複数の領域にわたるプロジェクトに取り組み。

【趣味】渓流釣り、山登り
【家族】妻と二人暮らし

私たち日本人には耳慣れないかもしれないアグロエコロジーという言葉。

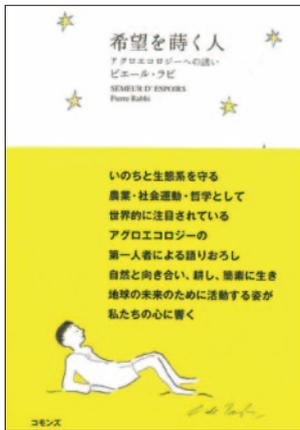
いのちと生態系を守る農業・社会運動・哲学として、急速に世界の注目を集めている。その第一人者であるピエール・ラビ氏の語りおろしである。

本書は、「第1章種を待つ人の生涯」「第2章エコロジーの深い考察」「第3章現代と向き合う」「第4章希望の

種を待つ」で構成されている。第3章にある一文を紹介しよう。「今日、多くの人が想像するのは逆に、都市は農村にとても依存しています。(中略)都市と農村という二つの空間の有機的な結びつきをトータルに見直さなければ、巨大な都市地域が食料不足や深刻な状態に陥ることは、十分にあり得るでしょう。物質的な過剰は私たちが安心させてくれますが、それが継続するという現実的な根拠はありません。」

ラビ氏の言葉は、物質文明につかつた私たちに警鐘を鳴らしはするが、決して批判一辺倒ではない。自然と向き合い、耕し、簡素に生き、地球の未来のために働きかける生き方は、時に温かく、時にユーモアを交え、私たちの心に響く。

本書は単なる農業や環境問題をテーマにした書籍ではない。「農の営み」から発せられるメッセージには、心豊かに暮らすヒントが詰まっている。



車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)

0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団協約を締結し、実施しているものです。
- 集団協としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社)は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併し誕生した会社です。

随 想

宇治田原町は、滋賀県との県境、京都府の東南部に位置する人口約9、400人の町です。古くから京都府南部の山城地域と奈良・近江を結ぶ交通の要衝で、霊峰・鷲峰山をはじめ四方を山に囲まれた町は、清涼な水と豊かな緑に恵まれた自然環境が自慢です。町の地形がハートに似ていることから、まち全体が優しくとぬくもりに包まれる「ハートのま



随 想
絆で輝く 未来を創る
交流のまち

うじたわら にし たに のぶ お
京都府宇治田原町長 西谷 信夫

ち」の打ち出しを進めています。全国に誇れる本町の基幹産業はお茶。まちを見渡すと、緑豊かな茶畑が広がり、茶づくりの繁忙期には通りを新茶の豊かな薫りが漂います。宇治茶の主要産地として、100件以上の農家が良質な茶づくりに力を注ぎ、平成27年からは2年連続で若手の生産者が農林水産大臣賞を受賞しました。

みなさんが日常的に飲まれている緑茶は、本町の湯屋谷地域が発祥の地と言われています。江戸時代の中頃、湯屋谷で茶業を営む永谷宗田が、15年もの歳月をかけて色・味・香りに優れたお茶の製法を編み出しました。人々が飲むお茶が、茶色い粗末なものから緑茶のおいしいお茶に変わった転換点です。この製法は「青製煎茶製法」と呼ばれ、今日の日本緑茶製法の礎となりました。本町が「日本緑茶発祥の地」といわれる所以です。

史と伝統を核とした地域資源を活用し、産業振興や観光交流、雇用創出に繋げ、多様な世代で賑わう活気にあふれる交流のまち「お茶のふる里・宇治田原」を築くことが、2期目の町政を担わせていただく私の大きな仕事であると考えています。

少子高齢化と人口減少が進み、持続可能な社会システムの構築が急務とされる今日、人と人が絆で結ばれ、20年、30年、そして50年先の未来に「希望」と「責任」が持てる、住んでいる人も住んでいない人にも「好きやねん、うじたわら」と言っていただけ、そんなまちづくりを住民のみなさん、役員職員とともに進めていくことが私の目標です。

そのために私は、本町における課題を踏まえ、まちづくりの「最重要三本柱」を掲げました。

平成35年度に供用が開始される新名神高速道路の開通を睨み、域内交通・流通の利便性向上と土地利用を促進するまちづくりの誘導軸・都市計画道路宇治田原山手線を整備する「みちづくり」。

また、宇治田原山手線と連動して、住民サービスを効率よく提供し災害

私は常々「百万一心」という言葉を使わせていただいています。「みんなが力を合せば何事も成し得る」という意味です。まちづくりのあらゆる取組において、住民と行政が心を一つにすれば、三本のそれぞれの柱が連関し足し算ではなく掛け算の相乗効果が発揮されるはず。本年は、京都府と山城地域12市町村が連携して、宇治茶をテーマに景観維持や産業振興、文化の発信などを進める「お茶の京都」事業のターゲットイヤー。来年の2月には、本町で全国茶香大会を開催し、伝統ある宇治田原茶の魅力を外内に広く発信していきます。「日本緑茶」の歴史は宇治田原町から。

皆様のお越しを「おもてなしの心」でお待ち申し上げております。

2つのジャンボ同時発売

5 ハロウィンジャンボ **5億円**

5 ハロウィンジャンボミニ **5千万円**

笑いが止まらない2つのジャンボ!

10月11日(水) 発売

2017年新市町村振興宝くじ

発売期間:10月11日(水)~10月31日(火)

抽せん日:11月9日(木)

- 1等前後賞合わせて5億円 (1等3億円 / 前後賞各1億円)
- 1等前後賞合わせて5千万円 (1等3千万円 / 前後賞各1千万円)

売り切れしだい発売終了!

各1枚300円



この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。 一般財団法人 全国市町村振興協会